

消化器外科部

# 胃外科

—胃がんに対する治療開発—

# 胃がんについて

胃はおなかの左上の方にあり、食べ物を貯め、少しずつ腸の方に流す、という働きのあるところです。ここにできた悪性の「できもの」が胃がんです

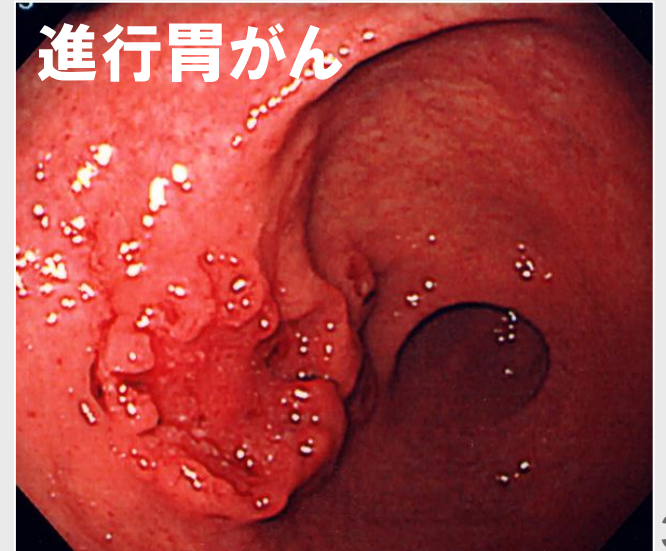
胃がんはその深さに応じて「早期胃がん」と  
「進行胃がん」にわかれます

早期胃がん  
と  
進行胃がん

早期胃がん



進行胃がん



# 胃がんの 進行度

胃がんの進行度(病気の進み具合)は

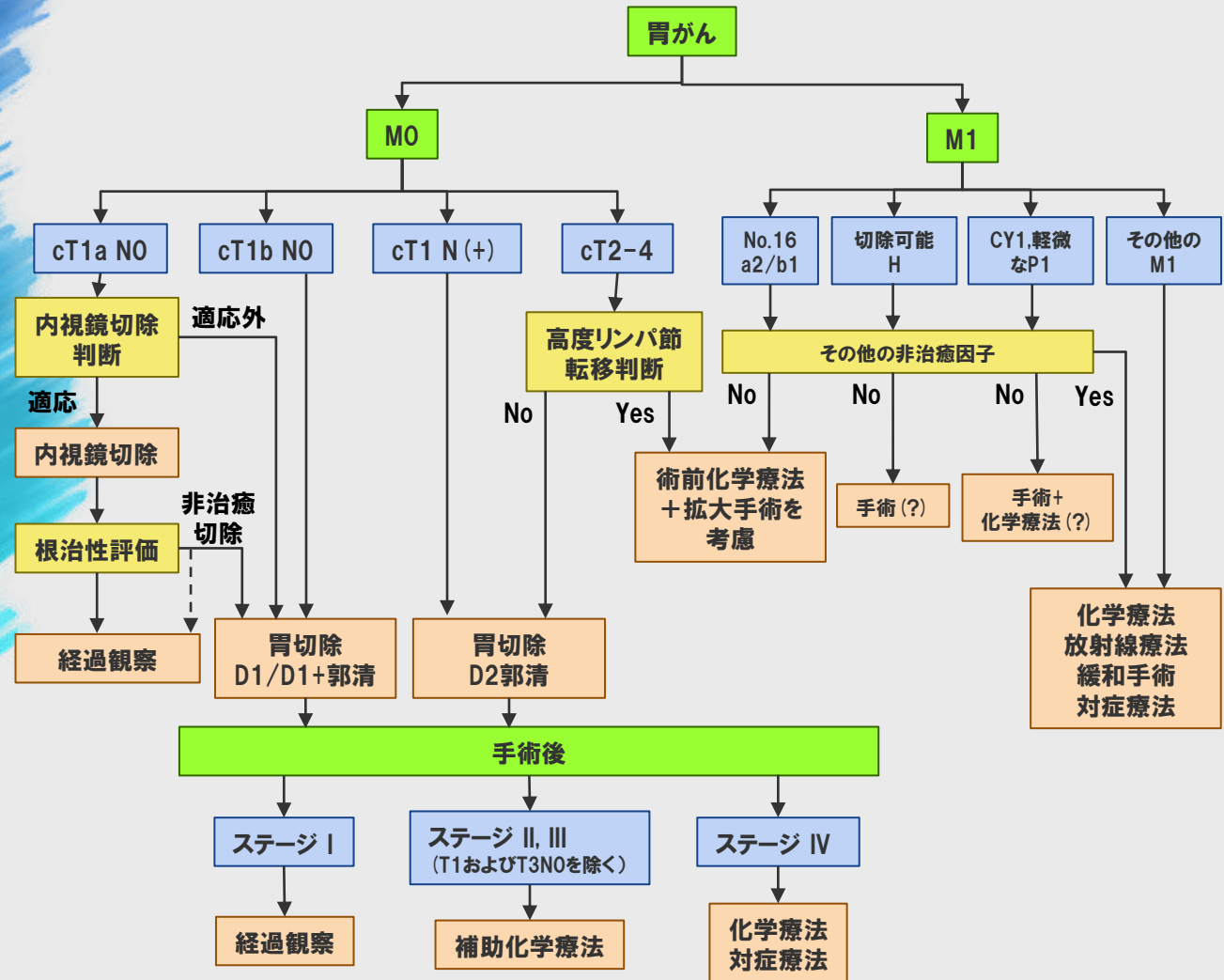
- ・深達度(病変の深さ)
- ・リンパ節転移度(リンパ節転移の個数)
- ・遠隔転移(遠くの臓器への転移の有無)

によって、以下のように分類されます

深達度 \ リンパ節転移の個数	なし (M0)					あり (M1)
	なし (N0)	1~2個 (N1)	3~6個 (N2)	7~15個 (N3a)	16個以上 (N3b)	有無に関わらず
T1a, T1b	IA	IB	IIA	IIB	IIIB	IV
T2	IB	IIA	IIB	IIIA	IIIB	
T3	IIA	IIB	IIIA	IIIB	IIIC	
T4a	IIB	IIIA	IIIA	IIIB	IIIC	
T4b	IIIA	IIIB	IIIB	IIIC	IIIC	

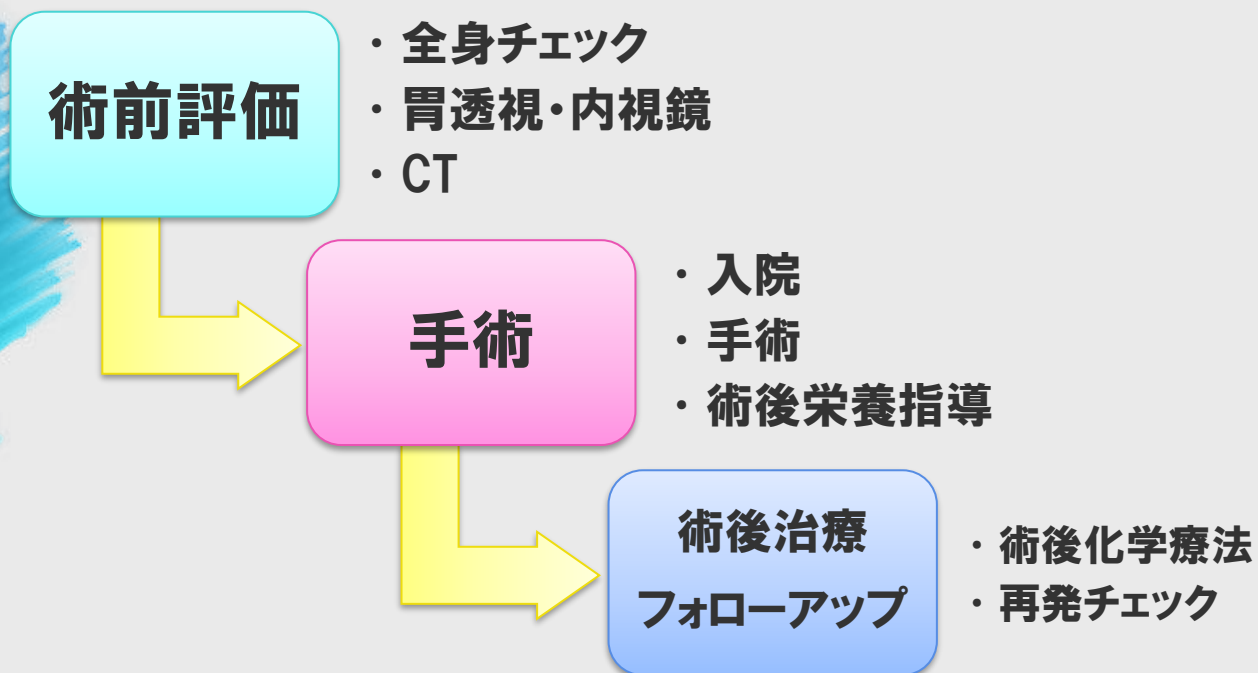
# 胃がんの治療は進行度の応じて以下のように推奨されています

## 胃がんの 治療



胃がん手術治療は以下のような流れで行われます。それぞれの段階でさまざまな医療スタッフが患者さんを全力でサポートいたします

## 胃がん 手術治療 の流れ



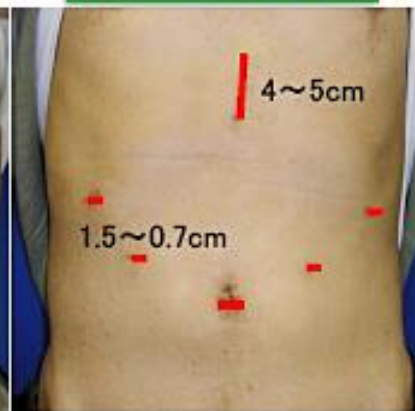
手術は胃がんに対して最も標準的な治療法で  
開腹手術から腹腔鏡下手術、ロボット支援下  
手術まで、さまざまな手術に対応しています

## さまざまな 胃がん手術

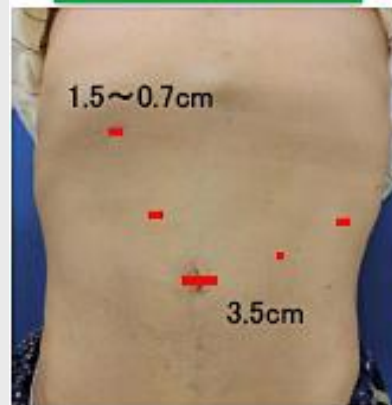
開腹手術



腹腔鏡補助下手術



完全腹腔鏡手術



Reduced Port Surgery

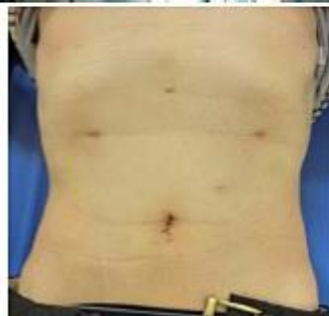


腹腔鏡下手術:モニター画面で観察しながら、器具を操作して胃の切除を行う方法 傷が小さい、手術後の疼痛が少ない、出血量が少ない、拡大した画像で血管などを確認できる、などのメリットがあります

腹腔鏡下手術のさらなる進化として、  
ロボット支援手術やReduced Port Surgeryにも  
取り組んでいます

# 腹腔鏡下 手術の さらなる 進化

(一般的な)腹腔鏡手術



さらに  
作業を細かく



ロボット支援手術



さらに  
“きず”を小さく



Reduced Port Surgery





## ロボット支援 手術

ダヴィンチは最先端の手術支援ロボットです  
専用カメラとロボットアームを挿入し、3Dモニター  
を見ながらロボットアームを操作して手術を行  
います

当院では、2015年より、最新のda Vinci Xi  
サージカルシステムが導入されています



ロボット操作部



ロボット本体



ビデオ・電気メスなど

# 胃がんに対する 治療開発

現在の標準治療により、かなりの患者さんが胃がんを克服できる時代になってきましたが、進行胃がんを中心に、まだまだ治療成績は改善の余地があります

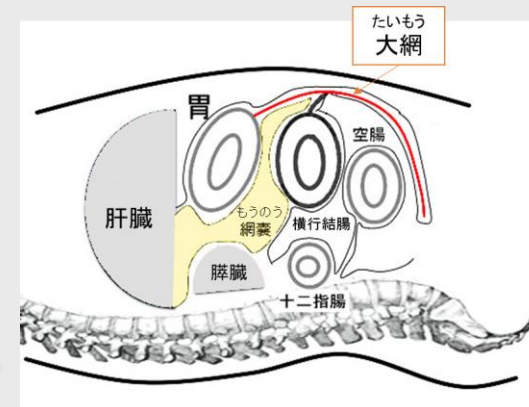
新しい治療法は、それを試す臨床試験を通じて、その効果が確かめられます

より良い標準治療を目指して、当院で行っている、胃がんに対する臨床試験をご紹介します

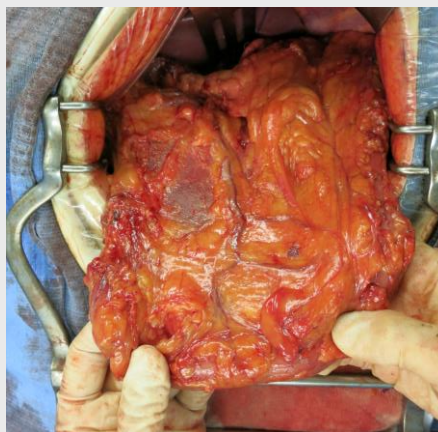
# 大網切除の 意義を検討 する 臨床試験

進行胃がんに対する手術の際には、通常、「大網」という脂肪でできた膜を一緒に取ります

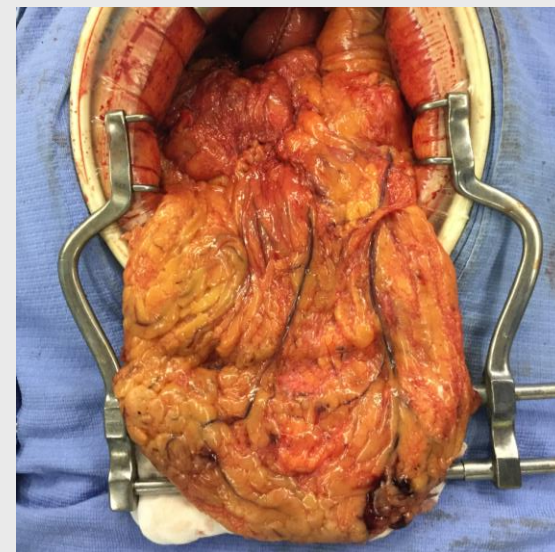
この膜を温存して手術をすることにより、術後の合併症や腸閉塞を減らすことを目指します



大網切除



大網温存



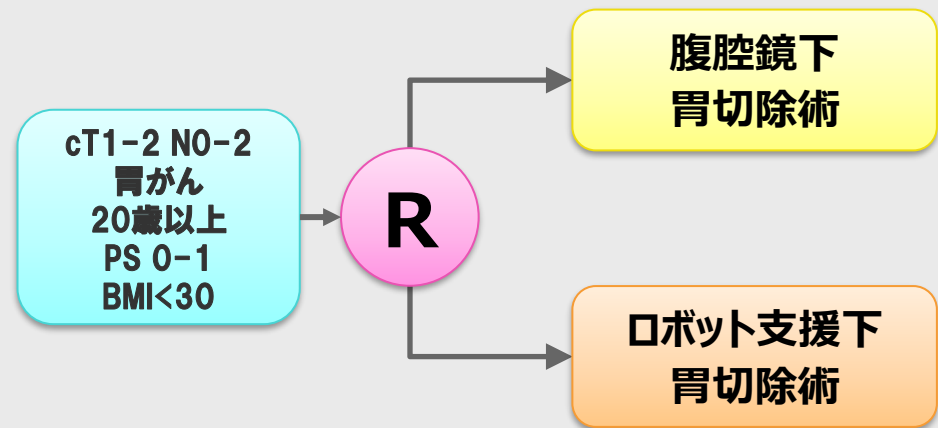
# ロボット支援 下胃切除術 の臨床試験

自由度の高い鉗子を用いたロボット支援下  
手術の特性を生かし、術後合併症発生割合  
を低下させることを目指します

腹腔鏡下手術



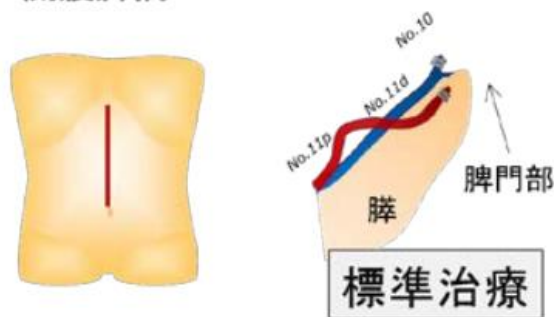
ロボット支援下手術



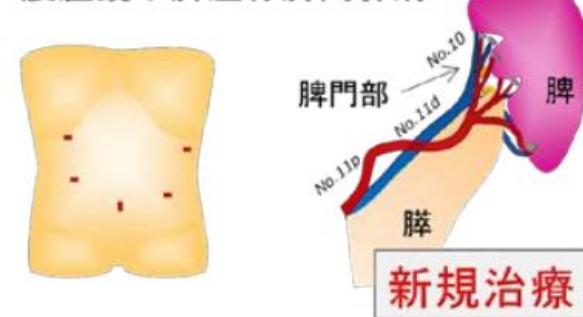
# 腹腔鏡下 脾温存 脾門郭清

胃の上部にある一部のがんに対しては、通常胃の隣にある脾臓を取る手術が行われます。腹腔鏡下手術の拡大視効果を生かして、脾臓を温存しつつリンパ節郭清を行います。

開腹脾摘



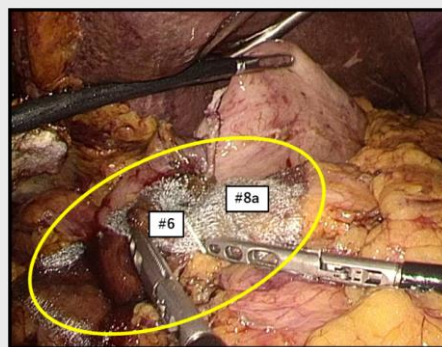
腹腔鏡下脾温存脾門郭清



# ポリグリコール酸シート被覆による 膵液瘻予防

胃がん手術後の膵液瘻(膵臓の液が漏れる)は、注意が必要な術後合併症です  
手術時に、膵周囲リンパ節郭清部位をポリグリコール酸シートで被覆することにより、膵液瘻の発生予防を目指します

ポリグリコール酸シート被覆例



胃全摘  
or  
幽門側胃切除  
(D1+以上郭清)

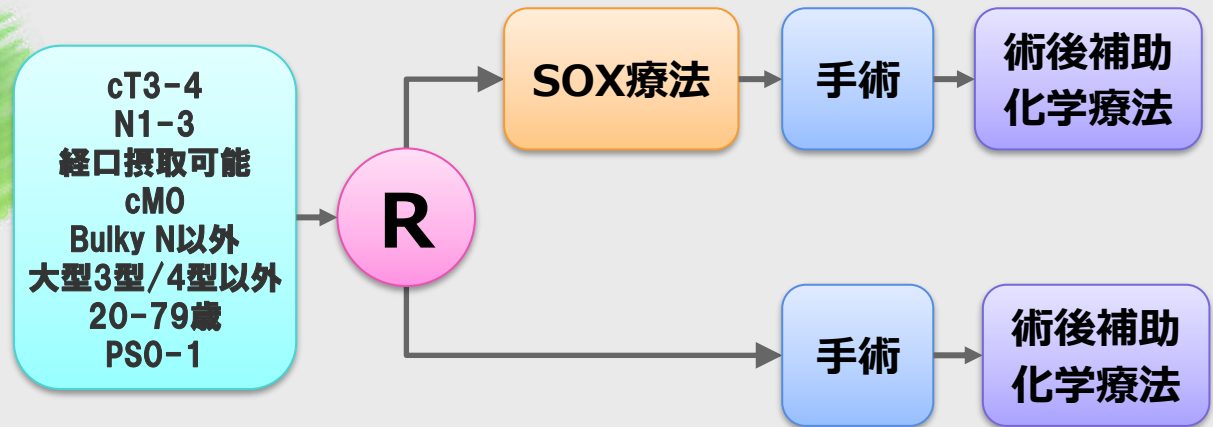
R

ポリグリコール酸  
シート被覆群

対照群  
(従来治療群)

進行胃がんに対する現在の標準治療は手術→術後補助化学療法ですが、進行度の高い胃がんを対象に、術前化学療法を追加することにより、治療効果の向上を目指します

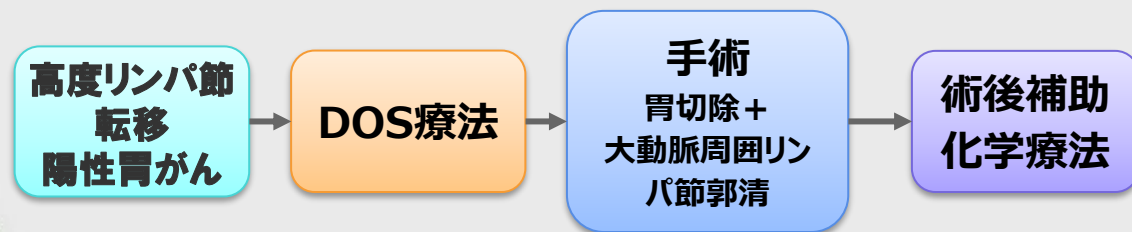
## 術前SOX療法



SOX療法: 飲み薬の抗癌剤であるS-1と、点滴の抗癌剤であるオキサリプラチンを組み合わせた治療法です

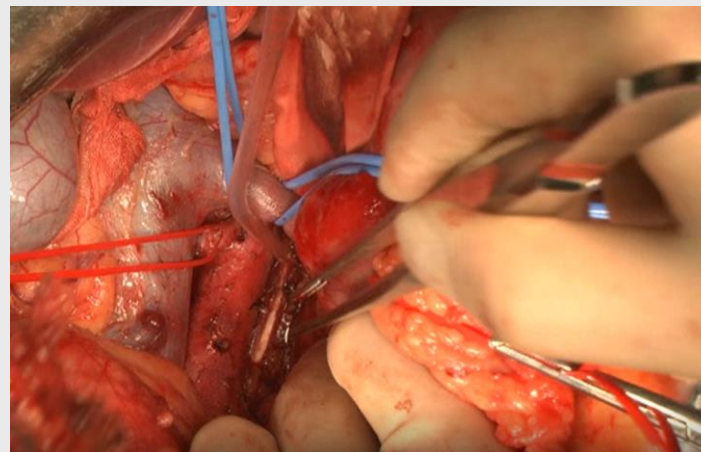
高度リンパ節  
転移陽性症例  
に対する  
術前DOS  
+ 拡大郭清

高度リンパ節転移陽性症例に対しては、  
現在でも術前化学療法 + 拡大リンパ節郭清  
が行われていますが、より強力な  
術前化学療法の効果を確認します



DOS療法: 飲み薬の抗癌剤であるS-1、点滴の抗癌剤であるオキサリプラチン、ドセタキセルを組み合わせた治療法です

拡大郭清 (大動脈周囲リンパ節郭清)

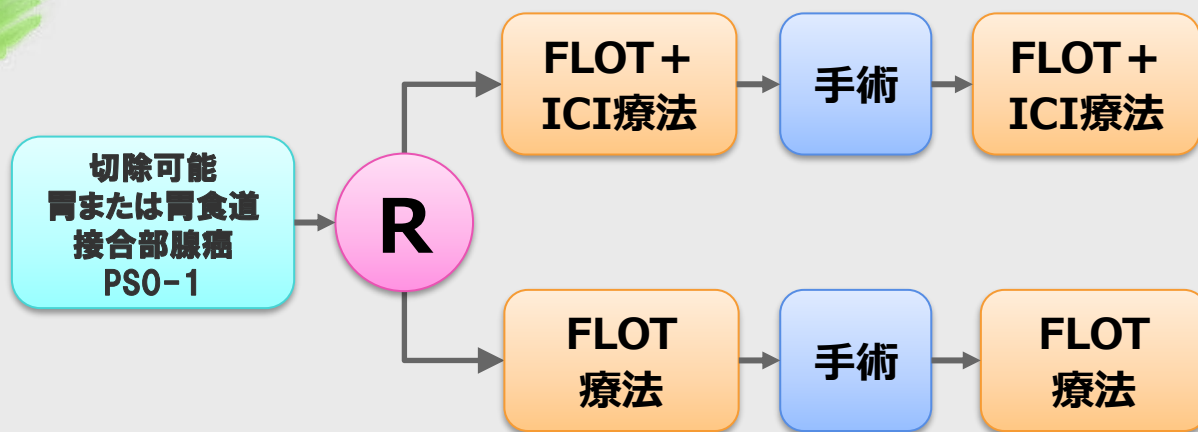




# 免疫チェックポイント阻害剤の周術期治療

免疫チェックポイント阻害剤は、がん細胞が免疫の働きにかけた「ブレーキ」を解除し、免疫の働きを活発にしてがん細胞を攻撃する治療法です

胃がんに対する周術期化学療法に、免疫チェックポイント阻害剤を加えることにより、治療効果の改善を目指します



FLOT療法: 点滴の抗癌剤である5-FU、ロイコボリン、オキザリプラチン、ドセタキセルを  
組み合わせた治療法です

ICI : 免疫チェックポイント阻害剤

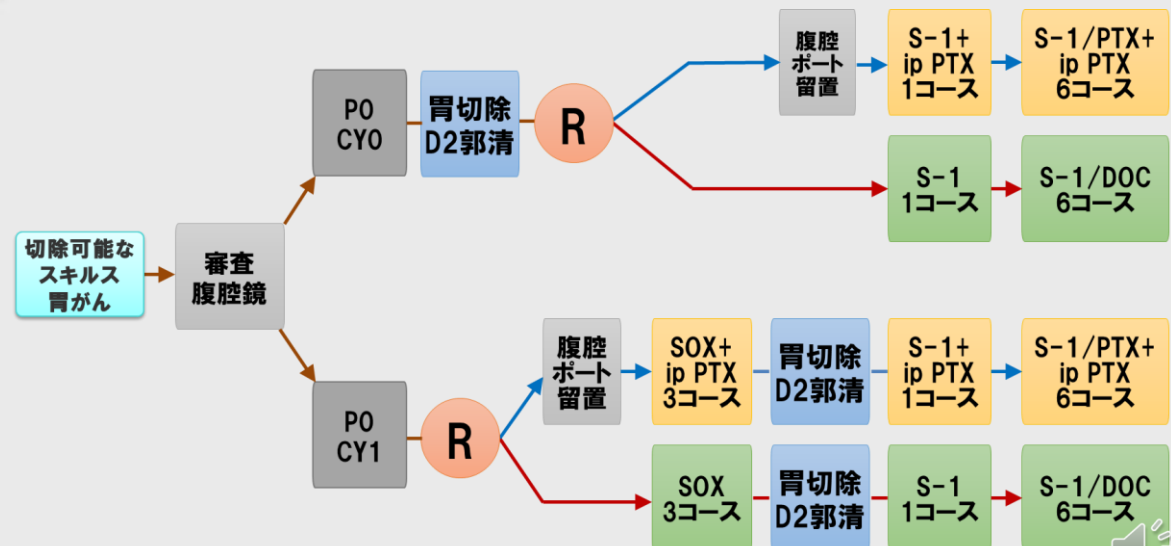
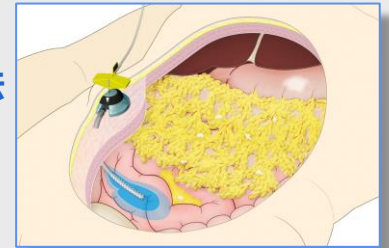
スキルス胃がんは、腹膜転移を起こしやすい  
 悪性度の高い胃がんです  
 腹腔内の微小な癌細胞に強く作用する  
 腹腔内化学療法により、スキルス胃がんの  
 治療効果の改善を目指します

スキルス  
 胃がんに  
 対する  
 周術期腹腔内  
 化学療法

腹腔ポート

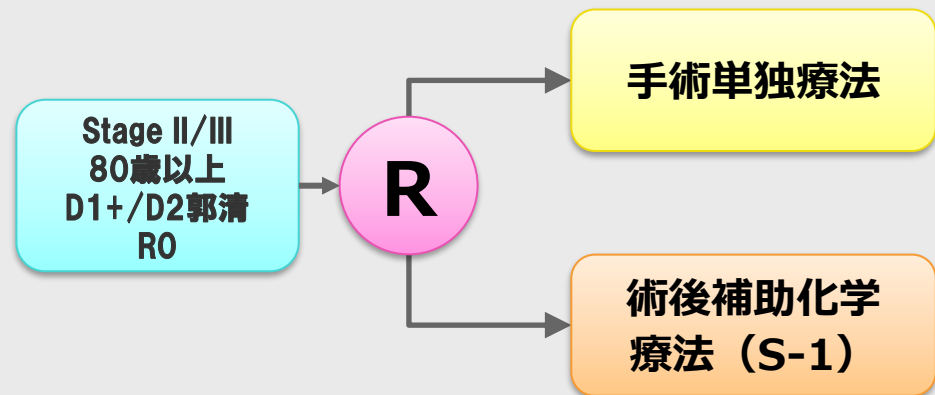


腹腔内  
 化学療法



# 高齢者胃がん に対する 術後補助 化学療法

80歳以下の治癒切除された胃がん患者さん  
に対しては、術後補助化学療法がおこなわれ  
ますが、80歳以上の患者さんに対する補助  
化学療法の意義は明らかではありません  
80歳以上の患者さんに対する術後補助化学  
療法の意義を検討します



# お願い

**新しい治療法を開発するためには、患者さんの  
臨床試験に対するご協力が不可欠です  
対象となる臨床試験がありましたら  
是非ともご協力をお願いします**